

大浦 周	近現代美術	
おおうら いたる		
	表現主義、ドイツ近現代美術	常設展・収蔵品担当のとりまとめをしています。これまで担当した主な企画展は「辰野登恵子 オン・ペーパーズ」(2018年)、「New Photographic Objects 写真と映像の物質性」(2020年)、「ボイス＋パレルモ」(2021年・共同企画)など。今年度はアーティスト・デュオ Nerhol(ネルホル)の個展を担当します。

菊地真央	近現代美術	近代美術館に勤めて8年目になります。今年度は埼玉ゆかりの作家小村雪岱の調査を進めています。今後近代日本画の展示機会を積極的に増やしていきたいと考えています。
きくちまお		
	日本の近代美術	

五味 良子	近現代美術史	
ごみ りょうこ		
	視覚文化交流史	近代美術館勤務時は、常設展・収蔵品と企画展を担当していました。 昨年度からは、文化財・博物館課に異動し、主に銃砲刀剣類の登録業務に携わっています。

佐伯 綾希	近現代美術	2020年から近代美術館で勤務し、今年度から常設・収蔵品担当を務めます。 これまでに、「美男におわす」(2021)、「シアトル→パリ 田中保とその時代」(2022)、「アブソリュート・チェアーズ」(2024)、「メキシコへのまなざし」(2025)などの企画展、および「アーティスト・プロジェクト#2.07 永井天陽 遠回りの近景」(2023)に携わりました。 美術作品を通して、世界の多様な見方を伝えられたらと思っています。
さえき あやき		
	イタリアの近代美術	

嶋原 悠	近現代美術	2015年より近代美術館に勤務し、現在は企画展担当に所属しています。これまで、「扉は開いているか—美術館とコレクション 1982-2022」(2022年)、「桃源郷通行許可証」(2022年)、「イン・ビトウィーン」(2023年)などの企画展を担当しました。今年度は埼玉県出身の写真家・野島康三と洋画家・斎藤与里の2人の作家の活動を紹介する展覧会を担当します。また、美術館が身近で安心して利用できる場所となる環境づくりにも取り組んでいきたいと考えています。
しぎはら はるか		
	日本近現代美術	

平野 到	近現代美術	
ひらの いたる		
	日本の戦後美術 近現代のドイツ美術	現在は学芸部を統括しながら、展示事業などにも関わっています。20世紀の国内外の先鋭的な美術動向、芸術運動に関心があり、「1970年—物質と知覚 もの派と根源を問う作家たち」(1995)、「イスラエル美術の現在」(2001)、「長澤英俊展—オーロラの向かう所」(2009)、「浮遊するデザイナー—倉俣史朗とともに」(2013)、「ディエゴ・リベラの時代」(2017)、「大・タイガー立石展 世界を描きつくせ！」(2021-22)、「吉田克朗展 ものに、風景に、世界に触れる」(2024)などの企画展に携わりました。 新たなものの見方をもたらし、飼いならされた思考に風穴を開けてくれるような作品との出会いを、何よりも大切にしたいと思っています。

吉岡 知子	近現代美術	
よしおか ともし		
	日本近代美術	2008年より近代美術館に勤務し、今年度から初めて教育・広報担当となりました。 主な関心領域は日本近代美術、地域美術史で、これまでに「原田直次郎展」(2016年)、「森田恒友展」(2020年)、「メキシコへのまなざし」(2025年)などを企画、担当しました。 今年度は教育・広報担当の統括業務のほか、当館のコレクションを調査研究を通じて新たな視点から紹介する企画展「美術館の舞台裏」を担当します。

佐藤 あゆか	現代美術	
さとう あゆか		
	戦後のアメリカ美術	2022年度より近代美術館に勤務し、今年度からは企画展担当になりました。今年度は企画展「Nerhol」の副担当のほか、「ミュージアム・シアター」の開催に携わります。 展示やイベントの企画・実施を通して、より多くの人に現代美術の面白さを伝えていきたいと思っています。

篠原 優	近現代美術	
しのはら ゆう		
	近現代美術、西洋美術	近代美術館には2022年度より勤務し、本年度からは企画展担当となりました。主にアーティスト・プロジェクト #2.09の開催や次年度以降の展覧会準備に携わり、今年度の博物館実習も担当しています。多くの方に美術館へ足を運んでいただけるよう、積極的に普及事業にも取り組んでいきたいと思っています。

西尾真名	近現代美術	
にしお まな		
	日本近代美術	2024年度に着任し、常設展・収蔵品担当に所属しております。今年度は、MOMASコレクションや他館への作品貸出しのサポートの他、企画展「野島康三と斎藤与里」の副担当を努めます。展示では、来春のMOMASコレクションの「頭／体」コーナーを担当する予定です。 日本の30-40年代の芸術動向に関心があります。広い意味で埼玉と関わる作家を調査・研究し、将来的には展覧会としてお届けできればと考えています。